

5. 青森空港に求められる取り組み（実施メニュー）

本項においては、課題と施策をもとに整理された各テーマに、考えられる施策事例の案等をメニュー案として整理した。

その一部については既に実施中のものも含んでいる。

今後、空港関係者がここに整理された事例の案を参考に、連携して航空サービスの質の向上に取り組む、観光交流促進に寄与していくことが重要である。

(1) 航空サービスの向上

空港における運用高度化、サービス高度化等の観点から、利用者のニーズに応える路線の設定、施設整備を推進する。

国内旅行の利便性向上

・ダブルトラック体制の復活

行政、経済団体等で構成する研究会を設置し、本県参入のためのビジネスモデルを検討・提案するとともに、航空会社の担当者を本県に招聘し、ビジネス・観光資源を強くPRする。

需要予測調査やアンケート調査を行い、利用者拡大のためのアクションプランを策定する。

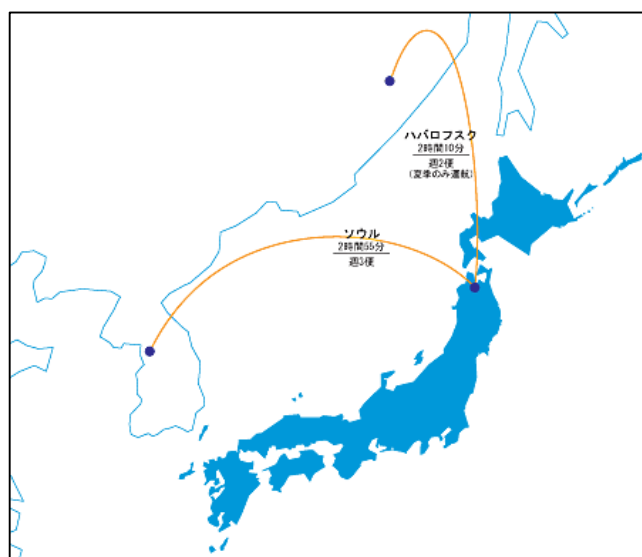
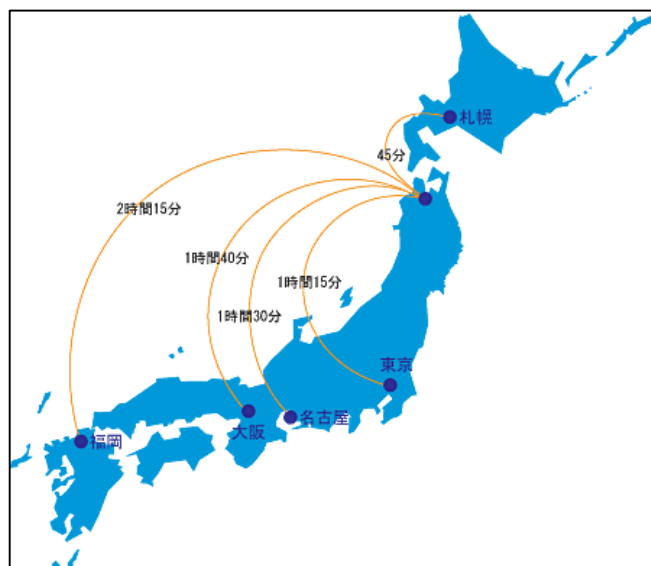
- ・既存路線の増便
- ・休止路線の復活及び新規路線の開設
- ・乗り継ぎ機能の強化
- ・小需要路線の新設

国際旅行の利便性向上

・既存路線の維持・拡大

関係機関の連携を一層強化し、国際線の維持・拡大に努める。

- ・新規路線の開設
- ・国際チャーター便の充実
- ・C I Q体制の充実



定時運航の確保

・就航率の向上

就航率の向上を図るため、計器着陸装置等の高カテゴリー化事業を進めており、平成19年3月中旬の供用開始を目指している。これにより濃霧による欠航は約1/10に激減し、信頼度の高いサービスを提供することが可能になる。

・降雪等による遅延、欠航の軽減

除雪体制の強化

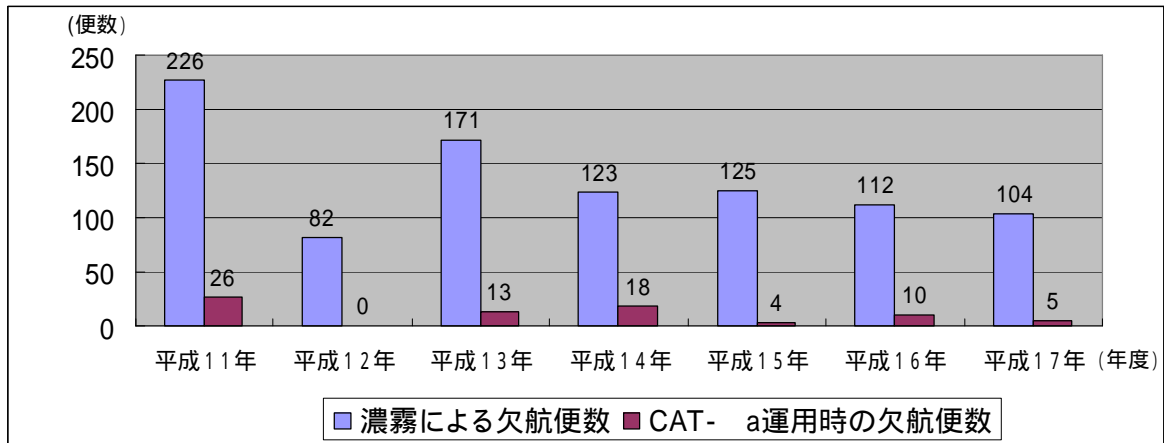
(除雪の効率化、融雪対策の検討等)

冬期における高カテゴリー(CAT-)運航の可能性検討

(降雪・積雪による誘導電波への影響等について、国と共に検討を進める)



CAT - a 運航時の濃霧による欠航便の改善効果試算



ターミナルエリア施設の機能強化

・ターミナルビル施設の充実

ターミナルビルの増改築

(降り用エスカレーターの設置)

バリアフリーの推進

空港ビルの混雑緩和と機能強化



(動線上への自動チェックイン・発券機の移設検討、
手続き時間の短縮、搭乗待ち時間のサービス向上)

- ・ターミナルビルの拡充整備

利用者意見の反映

- ・顧客満足度向上への施策の実施

アンケートの実施

(空港利用者へのアンケート、「空の日」来場者へのアンケート)

施策検討及び実施

(ホームページに寄せられた意見・提案の施策への反映)



空港ビルへの連絡通路



(2) 空港アクセスの充実

交通結節点としての空港機能の強化

- ・ターミナルエリアの混雑緩和、バス利用者等のサイン改善

ターミナルエリアの整備

(立体駐車場の全面供用(連絡通路) 構内道路の混雑緩和(交差点改良))

平成18年11月1日供用開始

多様なアクセス手段に対応した構内交通の再整理

(レンタカー・バス等の乗降場の再編等について継続して検証する)

空港と周辺都市の交通の円滑化

- ・アクセス道路の整備、空港と主要観光地とのアクセスの強化

県内幹線道路網の整備拡充

(高規格道路の整備促進、幹線道路の整備促進)

公共交通アクセスの充実

(広域的な周遊ルートとアクセス手段の構築等に関する調査、検討)

(バス路線の拡充、運行頻度、運賃値下げ等の検討)

二次交通の充実

バス、タクシー、レンタカー各社との協働により、スムーズな二次交通の拡充を図る。

(事例：[空港と観光地を結ぶ乗合タクシー](#))

(二次交通を進める会の新設)

(エアポートライナー(乗合タクシー)の検討)

(3) 情報の提供

観光・アクセス・運航情報の有効活用

- ・ 空港ホームページの内容充実
ホームページのリニューアルとともに、情報量のアップを図る。
H18開催シンポジウム及び観光交流促進プログラムの情報提供
リアルタイム情報の充実を図る。(フライト情報(欠航・遅延情報)、アクセス情報、駐車場
情報等)
観光・イベント情報及びアクセス情報のアップ
環境対策及び情報の提供
利用者意見の施策への反映に関する情報提供
- ・ 空港ビルにおける情報発信の充実
ホームページのリニューアルとともに、情報量のアップを図る。
空港案内所における情報発信の充実を図る。
- ・ 観光・イベント情報ホームページの内容充実
観光情報発信システムの整備に連動させ、発信情報を充実させる。
- ・ 交通、気象情報の提供
総合交通情報システムの整備に連動させ、発信情報を充実させる。
道路情報(雪情報、監視カメラ、道路表示板等システム)
気象情報(警報、見通し等)
交通情報(鉄道、バス、航空、海路等)
- ・ 携帯、カーナビ等情報端末でも閲覧できるようにする。

(4) ユニバーサルデザインの充実

誰にでも利用しやすいターミナルエリアづくり

- ・ ターミナルエリアにおけるユニバーサルデザインの推進
空港ターミナルビル、構内道路、駐車場等利用者の動線上におけるユニバーサルデ
ザインの推進を図る。
「青森空港バリアフリー協議会」において、利用者のニーズ、意見を反映させた実施計画の
立案を継続して進める。
- ・ 国際化に対応した案内表示システムの整備
外国人による実態調査等によりサインの表示場所、表示方法、表示対象語等を検証、
必要に応じて改善(英語、韓国語、中国語、ロシア語等)

(5) 空港を核とした地域づくり

空港単独の施策にとどまらず、空港の立地を活かした周辺地域の施策を取り込むことにより全体の活性化を目指す。

空港周辺の空間の有効活用

- ・ 防災機能の強化
台風、地震災害時の救急・支援活動への対応マニュアルの整備
防災ヘリ、県警ヘリとの連携による災害時のヘリポート機能の強化
- ・ 小型機エプロン周辺の利活用
(当該エリアは、県警ヘリ、防災ヘリの基地をはじめ、業務並びにプライベートの格納庫が集積しており、駐機場も一般小型機に提供している。)
- ・ 空港周辺の未利用地の有効活用
潤いのある魅力的な空間の形成による集客

県民、民間団体等との協働

- ・ 空港に関わる事業構想、計画策定への県民参加の推進
計画の策定、空港景観の創出等への県民参加を啓発することにより、空港への関心を高める。
事例：青森エントランスロード景観づくり（モデル地区（青森空港から青い海公園）における市民参加による景観づくり）
- ・ 空の日イベントの活用
地域レベルでの国際交流、アンケート等による利用者のニーズの把握
- ・ イベント利用の奨励
ターミナルビルスペース等を利用した催し物等（「エアポートギャラリー」、「地場産品の特設販売」等）により、空港への集客を図る。

(6) 観光交流促進プログラムの推進

観光交流促進プログラムの策定・推進

市町村や観光関係団体等関係機関に働きかけながら、各種施策メニューの推進に努めるとともに、継続してプログラムの評価・検証をし、新たな有効施策の提案を行う。

「あおりツアーリズム」の推進

- ・ エアポートセールスの推進
国内外の航空会社、利用者等に対して、青森空港の安全性、確実性、快適性をアピールし、一層の利用促進を図る。
- ・ 空港における「おもてなし」の推進
おもてなしアドバイザー制度を導入し、アドバイザーによる空港関係者の講習会及び「おもてなし」の実践により、空港における「おもてなし」の推進を図る。

- ・他空港との連携

- 三沢空港との連携

- 県内ツイン空港体制を維持し、新たな観光需要の創出を図る。

- 北東北の各空港及び青函の連携

- 広域連携による新たな観光需要の創出により、空港の利用促進を図る。

- ・「立体観光」の推進

- JRとの連携など交通特性を活かした交通ネットワークの連携強化により、「立体観光」の推進を図り、新たな観光需要の創出、旅行企画商品の開発を行う。

(7) その他

航空貨物取扱機能の整備

- ・ 需要動向の調査・予測
- ・ 航空貨物取扱機能の拡充の検討
- ・ 国際航空貨物輸送の強化

エコ・エアポートの推進

- ・ 環境負荷の軽減と省エネルギーの推進
 - 「エコ・エアポート協議会」の設置
 - 「青森空港環境計画」の作成
 - (空港環境向上のため、管理者、航空会社、各事業者及び利用者により、青森空港に適した具体的な対策を取りまとめる。)

安全・安心な空港づくり

- ・ 保安体制の強化
 - 青森空港保安委員会の開催、各種訓練の実施等を通じ、空港の保安体制の維持、強化を図っているが、さらなる関係機関の連携と広報活動により、利用者の安全・安心の確保に努める。